

2021年度事業・活動方針

コロナ禍の中、社会情勢は急激に変化し、少子高齢化のスピードは加速しています。これらの変化を見据えながら、現場で捉える課題に事業・活動としてどう対応できるのか、変化を恐れず柔軟に見直し、本来やるべきこと、ミッションの実現に取り組んでいきます。

1. 未来を描く

未来につなぐ3プロジェクト答申を受けた中期計画の取り組みの具体化

2. コロナ禍の経験を生かした、各事業の業務継続計画の策定

3. 各種スキルアップ研修の実施

4. 場を活かす・人を活かす

- ・フードシェア*いちがお、インターンシップや就労体験の受け入れ

5. 現場から社会をかえる

- ・他団体と連携し地域課題の解決に取り組みます。
- ・全国小規模保育協議会の理事団体として「新しい保育イニシアティブ」推進に参加します。
- ・青葉フードシェアネットワークと共にガイドブック作りやソーシャルワークスキルを高めるため勉強会を開催。

II.各事業の取り組み方針

<保育事業>

- 1) 地域との連携～コロナ対策をとりながら「今こそまち保育」
- 2) 保育理念や保育の様子を積極的に発信をします。
- 3) 日々の給食の安心・安全と食育に取り組めます。
- 4) 保育園やパブリックスペースを活用して、「babyの日」や「親子ルーム開放Day」など、親子支援の場を再開します。また保護者も子どもも安心して利用できるように一時保育事業との連携をより進めます。

ピッピ保育園

- ・認可保育枠の子ども22人と一時保育の子どもたちが混ざり合いながら、少し小規模になった保育園の中で、子どもたちの「やってみたい」を大切に過ごします。
- ・コロナ禍においても実現できる親子支援や情報発信をおこなっていきます。

ピッピみんなの保育園

- ・認可保育枠の子ども29人と一時保育の子どもが混ざり合い育つ中で、ピッピ保育園やりとるピッピと連携し保育に取り組みます。
- ・地域の福祉拠点をめざし、くらしてらすや地域のみなさんとともに親子支援や地域防災活動に取り組みます。

りとる・ピッピ

- 1) 0歳児から2歳児までの一時保育の子どもを含む一体的な活動のなかで一人ひとりの育ちを見守っていきます。(認可保育枠12人、一時保育5人)
- 2) 小規模保育の特性を生かした保育・子育て支援に取り組みます。
- 3) より身近で子どもの食環境を整えるために自園調理の準備を進めます。
- 4) 全国小規模保育協議会に参加し、市内の団体とも連携しよりよい制度となるよう取り組んでいきます。

<親子支援>

ピッピ・おやこの広場はっぴい・乳幼児一時預かり事業ここはっぴい

子どもの育ちや保護者の状況に合わせて広場と一時預かりを行き来しながら利用する親子が増え、育児負担が軽減される様子がみられます。関わりを大切に多様な子育て家庭に寄り添う支援に取り組みます。

ピッピおやこの広場はっぴい

第二の我が家のようにほっとできる親子の居場所、多様な人たちが交流できる学びあう居場所づくりをめざします。

- ・産前からの身近な相談者として切れ目のない支援ができるよう取り組みをします。
- ・子育てに困り感があり、配慮が必要な利用者には法人内の相談支援チームや、一時保育や産前産後ヘルパーを活用します。また、保健師、子育てパートナーと連携し対応します。
- ・オンライン広場、土曜ひろばを引続き開催し、地域の親子と向き合います。

一時預かりのおへやここ・はっぴい

子どもひとりひとりの気持ちに寄り添い、安心して過ごせるようきめ細やかな保育を行います。保護者との対話を大切に想いを聞き取り、さまざまな家庭と向き合います。よりよい保育環境をつくるため、新基準により定員9人でスタートします。

- ・法人内の他事業所と連携すると共に外部の専門機関との連携、情報共有などを行います。
- ・スタッフ一人ひとりが主体的に保育に携わり、気づきを出し合いスキルアップにつなげます。業務の見直しを進め、働きやすい環境づくりに取り組みます。
- ・横浜ユニット連絡会、青葉ユニット会議、つづき青葉こくらぶなどと共に引続き政策提案に取り組みます。

<学齢期の親子支援>

となりのいえ

放課後等デイサービス、相談支援事業、放課後児童クラブの3事業が連携し、子どもたちに寄り添う居心地の良い場所の提供をめざします。利用者、学校、地域など、取り巻く環境を大切にし、世代交代を視野に入れた体制作りと事業運営を進めます。

1) 新たな取り組み

ヘルパーステーション事業と協働し障害児者の余暇活動に関わる移動支援事業に取り組みます。

2) 環境整備

子どもたちの保育環境を整え、安全に配慮したコロナ禍での対策を継続します。

3) 研修や情報の共有

障害特性理解と支援方法をテーマに内部研修を行うとともに、外部研修にも参加します。学んだことをスタッフ間で共有し、全体のスキルアップをめざします。

4) 他事業所、他団体との連携

法人内外の事業所との連携を深め、地域の中でとなりのいえの役割を意識した活動を進めます。

ピッピ学童保育となりのいえ

ひとりひとりのありのままを受け入れ寄り添うことを大切にします。

ピッピデイサービスとなりのいえ

報酬改定の影響で運営面では大変厳しくなりますが、制度の課題を積極的に発信しながら次年度へつなげます。

ピッピ相談支援事業となりのいえ

法人全体の相談支援機能を高めながら、ソーシャルワークの質の向上をめざします。

<多世代支援>

ヘルパーステーションみんなのいえ

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中、高齢者支援、介護保険事業を加えて産前産後ヘルパー派遣事業やとなりのいえとの協働事業の移動支援など新しい取り組みで、法人全体のマンパワーを生かし必要なところに必要な支援ができるよう取り組みます。

- 1) ニーズに対応できるようヘルパーのスキルアップ研修を行います。
- 2) 「産前産後ヘルパーモニター体験」を同行研修の機会として活用し、ヘルパー人材を増やすチャンスとします。
- 3) となりのいえとの協働事業で移動支援を行います。事業の拡大と共に、となりのいえの卒所者の余暇支援を進めます。
- 4) 利用者を訪問することで抱えている様々な問題が見えてきます。法人内の相談支援チームと連携してより良い支援をめざします。
- 5) 業務継続計画を立て不測の事態に備える体制を作ります。
- 6) 「木曜サロンみんなのいえ」は地域の人の気楽に立ち寄れる場として大切にします。新型コロナウイルス感染症については、細心の注意を払います。

大場町みんなのいえわたせハウス3事業

コロナ禍中でも守りに徹し過ぎず、必要なこと新しいことに柔軟にチャレンジしていきます。

サロン&まちの台所

・開所から9年目となり、高齢化がすすみ新住民の入れ替わりが急速にすすんだこの地域でどのような役割を担うのか、「食」の提供を地域に開くことを再考します。

大場りとり・ピッピ

- ・子どもにとって安心して過ごせるもうひとつの家となり、保護者に対しては子どもの成長をともに見守る者として信頼される場をめざします。
- ・法人内の保育事業全体と連携しながら、大場りとするならでの保育を大事にしていきます。

デイサービスさくら

- ・引き続き感染対策に配慮し、利用者とスタッフの命と健康を守ることを最優先としつつ、利用者の過ごしを優先した運営を続けます。
- ・現場から学ぶことを大切に、スタッフのスキルアップにつなげます。
- ・今後ますます重要になってくるソーシャルワークの視点を持ち実践の場に活かします。